

Child and Family Care Support of the Infancy in Sydney :

From the perspective of health care services

Eri Osawa¹, Fujiko Fukushima²,
Tei Yamaoka³, Naoko Kuriyama⁴

1 National Institute of Public Health

2 Toho University Faculty of Nursing

3 Information & Education Institute

4 Faculty of Sociology, Otomon Gakuin University

Abstract

Nowadays, it has been strongly advocated to provide continuous family care from pregnancy to infancy to support a family building a good relation with a new born baby, to prevent child abuse and so on. The authors had been interested in child and family care support in Australia for obtaining a new idea to Japanese situation. We especially focused on child care support of the infancy. In this study we conducted the survey in New South Wales.

In New South Wales, the state government had a child and family care policy that promote to provide integrated care for families with baby and infant. For primary health care, Early Child Care Centre took a prominent role to provide universal child and family care in a community. For secondary and tertiary health care, Tresilian Family Care Centre as a special facility provided telephone counseling service, day stay service, home visit service, residential services for families with any difficulties of child care. From a community to a facility, continuous care was provided based on multidisciplinary collaboration among child and family health nurses, social workers, psychologists, medical doctors and so on. We found that child and family care was provided under the same framework systematically from primary health care in a community to secondary and tertiary health care in a facility in NSW in this survey. The systematic and comprehensive approach can be recommended for creating new idea for continuous family and child health care in Japan.

シドニーの乳幼児期の子育て支援

——保健・医療の分野から——

大澤絵里・福島富士子・山岡テイ・栗山直子

国立保健医療科学院・東邦大学看護学部・

情報教育研究所・追手門学院大学

1. はじめに

昨今、少子化対策、家族と新しく生まれてくる子どもの良い関係性のスタート、児童虐待予防の観点から、日本においても妊娠期から出産、乳幼児子育て期までの継続的な子育て支援の必要性が叫ばれている。そのような中、筆者らは北欧の国々ように高負担高福祉ではないが、総合的な子育て支援を展開しているオーストラリアに関心をもった。とくに医療・保健・福祉の専門職が関わることが多い乳幼児期に着目し、オーストラリアのニューサウスウェールズ州（以下 NSW）にて、調査を実施した。本稿では、オーストラリアの都市シドニーが位置するニューサウスウェールズ州において、保健・医療分野の視点による乳幼児期の子育て支援を紹介することを目的とする。

2. 調査概要

2014年2月12日～14日の3日間で、NSW シドニー近郊にある乳幼児の育児支援に継続的に関わっているセンターのサービス提供者へインタビューを実施した(表1)。また、NSW 州全体の子育て支援政策と地域の育児支援に関する活動を把握するために、インタビューを

表1 訪問先およびインタビュー対象者

訪問先	インタビュー対象者
トレスリアン家族ケアセンター (カンタベリー／ネピアン)	看護部長 ソーシャルワーク&心理相談部門 マネージャー デイステイ／訪問看護／電話相談部門 マネージャー 宿泊サービス部門 マネージャー 看護師人材育成部門 教育担当者 セントラルインテイク 担当者
ベルモア乳児健康センター	子ども・家族ケア専門看護師

行った機関より提供された資料や保健セクターのウェブサイトより情報を収集した。

3. ニューサウスウェールズ州の人口および家族に関する概要

以下に、NSW の特徴をみるために、各州の人口および家族に関する統計を示す（表 2）。シドニーが位置する NSW の人口は、州および特別地域の中で最も多く、約 746 万である。NSW 州の年間の出生数は約 98,000、合計特殊出生率は 1.94 となっている。0-4 歳の子どもの割合は他の州と比較しても、大きな違いはないが、NSW は、子どもの数が多いことが特徴である。また、オーストラリア以外の国で生まれた者は、全体の人口の 31.4% となっており、英語を母国語としない人の率は、22.5% と、他の国からの移民も少なくない州である。

表 2 各州の人口統計

	NSW	Vic	QL	SA	WA	Tas	NT	ACT
人口 (2013)	7,465,332	5,788,751	4,688,204	1,677,185	2,550,288	514,001	243,213	384,020
世帯数 (2011)	2,750,145	2,113,114	1,719,574	672,027	881,600	208,002	72,359	137,885
年間出生数 (2013)	97,799	74,308	63,238	19,851	34,227	5,991	4,049	5601
合計特殊出生 (2012-2013)	1.94	1.85	1.98	1.90	1.91	2.02	2.11	1.80
0-4 歳人口数 (割合) (2013)	486,704 (6.5%)	368,983 (6.4%)	316,234 (6.7%)	100,327 (6.0%)	168,425 (6.6%)	31,423 (6.1%)	19,032 (7.8%)	26,115 (6.8%)
外国からの移民数 (2013)	71,428	62,302	36,961	11,875	45,238	1,391	3,196	2,609
外国出身の人口割合 (2011)	31.4%	31.4%	26.3%	26.7%	37%	16.4%	25.4%	28.6%
英語以外が母国語の人口割合 (2011)	22.5%	23.1%	9.8%	14.4%	14.5%	4.5%	26.7%	18.1%

NSW：ニューサウスウェールズ州、Vic：ヴィクトリア州、QL：クィーンズランド州、SA：南オーストラリア州、WA：西オーストラリア州、Tas：タスマニア州、NT：ノーザンテリトリー、ACT：オーストラリアキャピタルテリトリー

4. ニューサウスウェールズ州の乳幼児の子育て支援政策

NSW 保健局では、周産期および乳幼児の健康支援の政策として、2つの政策と1つのガイドラインを含む“早期家族支援パッケージ”を提示している。ここでは2つの政策を紹介する。

〈政策 1〉“母子のためのプライマリヘルスケア政策” (Maternal and Child Health Primary Health Care Policy)

州の周産期・乳幼児の支援における方向性と、普遍的な周産期・産後の家族のアセスメントや支援事業が示されている。ここでは、乳児の全戸訪問や乳児健診の一次レベルの支援を基盤とした支援の5つの必須要素と、具体的なリスクアセスメントのプロセス、リスクアセスメントのための質問票、アセスメントによるリスク別の支援内容を提示している。

1. 身体的社会的心理的なリスクを包含する包括的なアセスメントの確実な実施
2. 家族のリスクファクターの判断
3. 多機関・多職種によるチームマネジメントのアプローチ
4. 支援レベルの決定
5. 支援の評価と連携のとれた適切な支援の継続

〈政策2〉“子どもをもつ家族の安心した新生活への支援” (Supporting families early SAFE START strategic policy)

ここでは特に妊婦と2歳までの子どもをもつ家族のメンタルヘルスに対する社会的心理的支援の戦略を示している。この戦略は、SAFE START Model と名付けられており、次の5つの目指す成果をあげている。

1. 多分野・多機関が関わるヘルスケアシステムを構築すること
2. 社会心理的リスクおよびうつ症状の早期発見と適時適切な支援へのアクセス
3. 社会心理アセスメントや早期メンタルヘルス支援の提供できる保健人材の知識と技術の向上
4. 脆弱な家族の統合的なケアシステムへのアクセスの改善
5. 支援を必要とする人の適切な専門家へのアクセスの継続的評価

以上のように、NSW では出産直後から、母子の全数を対象に早期アセスメント・早期介入と継続的な支援を目指し、特に社会心理的な側面の支援およびヘルスケアにアクセスしづらい脆弱な家族への支援を戦略にあげた政策となっていた。

5. 保健・医療分野における乳幼児の子育て支援のしくみ

NSW には、152の地方自治体（日本の市町村）が存在するが、保健・医療セクターに関しては、州政府が上位の管轄となり、複数の地方自治体を集合させた Local Health District が存在する。NSW 州は、15の Local Health District で成り立っている（図1）。

今回は、その中でも主に Sydney Local Health District (SLHD) を訪問し、NSW の乳幼児の子育て支援について情報収集をした。SLHD の特徴は、8つの地方自治体約53万人をカバーし、約半数の住民が英語以外の言語を母語とする人々である。SLHD には、産科をもつ4つの公立総合病院と、出産後に地域での子育て支援に携わる複数の Community Health Centre (以下 CHC)、家庭医 (GP: General Practitioner)、プライベートクリニックなどがある。また、二次レベルの支援が必要な、育児で不安を抱えている母親や家族を受け入れる施設、Tresillian Family Care Centre の一つが SLHD に存在する。

NSW における子育て支援システム（図2）では、母親と家族の持つ力や活用できる地域



図1 NSW の 15 Local Health District

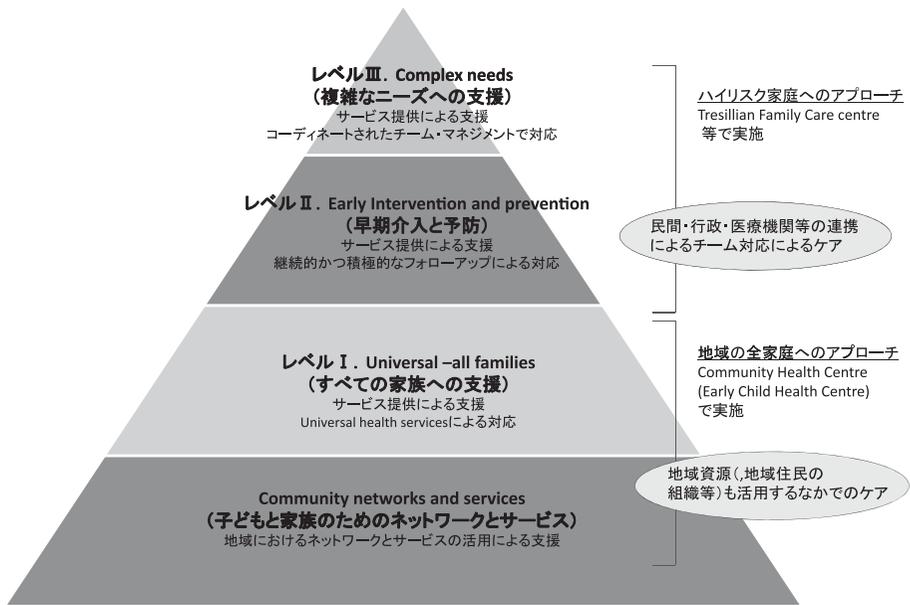


図2 NSW における子育て支援システム

資源などに関して、リスク要因や支援ニーズの程度についてアセスメントが行われ、その結果に基づきレベルⅠ～Ⅲどのレベルのサービスが必要か判断し、サービスが提供される。

すべてのレベルの基盤となるものが、地域におけるネットワークと地域活動や地域資源の活用による支援（Community network and services）であり、育児支援をする住民グループや

NPO などの活動などがここに入る。レベル I は、すべての家族への支援（Universal Health Services）であり、特別なリスクの認められない家族に対して、CHC で支援が提供される。レベル II は早期介入と予防の段階（Early Intervention and prevention）で、特定のリスク因子がみられる家族を対象とし、レベル III はさらに複雑なリスクに対する支援ニーズ（Complex needs）がある家族が対象となる。レベル II および III は、NSW では、Tresilian Family Care Support Centre、必要時には病院で支援が提供されていた。また、どのレベルにおいても、Child and Family Health Nurse と呼ばれる子ども・家族ケア専門看護師（以下、CAFHN）が、中心となり、多職種との連携のもと支援が提供されていた。

以下は、レベル II とレベル III となりうる家族のリスクである

〈レベル II 対象のリスク〉

20 歳未満、サポートを得られない、妊娠中の支援が遅れた、多胎児、早産児、子どもか親が障がい・慢性疾患を患っている、Parenting への不適応、不安（ややある）、抑うつ（ややある）、メンタル・ヘルスの問題や摂食障害などの障害の病歴、子どもやほかの家族成員の死に関連する悲嘆・喪失、解決できない関係性の問題がある（両親との間の関係性を含む）、経済的なストレス、安定しない居住、パートナーが無職、孤立（地理的に、電話がない、サポートを得られない等）、難民・最近移住した・英語力が乏しい

〈レベル III 対象のリスク〉

問題のある消費行動、親（養育者）の麻薬の問題、精神疾患の診断がある（統合失調症、双極性障害等）、ドメスティック・バイオレンスがみられる（経歴がある）、子どもの養護における問題がみられる（経歴がある）

1) Community Health Centre の役割と活動内容

SLHD には複数の CHC が設置されている（図 3）。CHC では乳幼児の育児支援のほかに高齢者支援、若者の支援などの地域保健・福祉活動のあらゆるサービスを持ち合わせており、複数ある CHC のいくつかは乳児を対象としたセンター（Early Child Health Centre、以下 ECHC）が設置されていた。すべての母親・家族が、居住地域の最も近い ECHC のサービスの利用につながるために、分娩を取り扱う病院で、ECHC を産婦・家族に紹介している。また Personal Health Record（通称ブルーブック）（図 4）という日本の母子健康手帳に値するものが配布され、その中に育児に関する相談機関の連絡先を記載している。

図 2 が示すように、ECHC は主にレベル I のサービスを提供する場所で、広く地域で生活する人びとを支援することで、健康と wellbeing の達成を図ることがその役割である。地域の統計情報のアセスメント、家族の情動的・精神的な wellbeing のアセスメント、ヘルス・プロモーションと教育、子ども虐待やドメスティック・バイオレンス、精神的な健康問題などの特定化の役割を担っている。



図3 SLHDのCommunity Health CentreにおけるSenior Citizen CentreとEarly Childhood Health Centreの併設



図4 ブルーブック

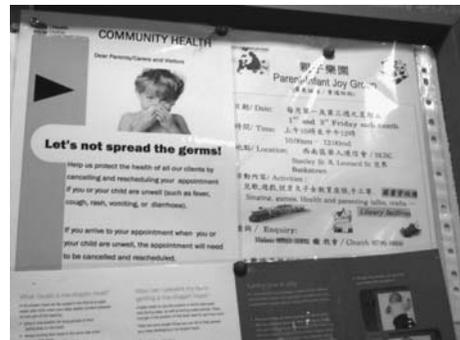


図5 育児の情報提供
英語以外にも対応している

ECHC では、次のようなサービスを提供している。

1. CAFHN による生後1~4ヶ月の全戸家庭訪問
2. Parenting Education¹⁾
3. 0歳から5歳の子どもへの歯科保健や予防接種
4. 育児の情報提供 (図5)

1) Parenting Education とは、方法的な育児方法の伝授ではなく、子どもとの関係性構築も含めた、親子関係構築理論を基盤とした親教育

5. 地域におけるインフォーマルなネットワークづくり

全戸訪問では、新生児のいるすべての家庭にコンタクトを取り訪問することで、サービスへのアクセスを向上させ、支援の必要な家族の特定と早期支援を目的に、子どもの成長発達の確認と、両親の養育への助言などを実施している。

2) Tresillian Family Care Centre の役割と活動内容

Tresillian Family Care Centre は、NSW に4つの施設を有する財団法人（図6, 7）で、州政府の子育て支援政策のスキームに位置付けられ、電話相談、ネットでのオンライン相談、日帰りデイ支援サービス、家庭訪問、宿泊型サービスを提供している。主に、CAFHN、ソーシャル・ワーカー、心理士がサービスの提供にあたり、州の政策のスキームのとおりケースに対してチームマネジメントを実施していた。

また、Tresillian Family Care Centre には、地域のCAFHN、家庭医（GP）、小児科医、病院などからコンタクトを一気に引き受けるセントラル・インテイクと呼ばれる一つの相談センターがある。そこでは、ケースについてCAFHNが情報収集をし、センターのどの施設でどのサービスを受けるかをアセスメントし、各施設に繋いでいた。

0～3か月の乳児の授乳の問題、体重増加の問題、子育てに影響する心身障害をもった親などは最優先ケースとして施設サービスが勧められていた。その他にも、強い不安をもった親、親子の関係構築にサポートが必要である親、片親で社会的に孤立をしているなどもサービスを受ける優先ケースとなっていた。

①日帰りデイサービスと家庭訪問

Tresillian Family Care Centre では Level II のサービスとして、家庭訪問と日帰りデイサービスを実施している。家庭訪問は、施設から15 km 圏内に居住する、生後36ヵ月までの子どもとその家族を対象に、平日8:00-16:30 無料で行われている。また、日帰りデイサービスが、施設によって異なるが、生後0～12（もしくは24, 36）ヵ月までの乳幼児を持つ、



図6 Tresillian Family Care Centre カンタベリ
(NSW の SLHD)



図7 Tresillian Family Care Centre ネピアン
(NSW の Nepean Blue Mountain Health District)

子育ての困難を抱える家族が短期間利用できる。これらのサービスは、母乳育児、子どもとの関わりなど子どもに関することや、孤立などの心理的に困難を抱える家族を対象としている

日帰りデイサービスは、母親や父親（パートナー）、祖父母、サポートをしてくれる友人などと一緒に参加することができる。ここでは、グループ・プログラム、教育、カウンセリングなどの実施により、家族が設定した目標を達成するための支援計画を立案し支援を行っている。提供するサービスや支援の内容は、産後うつやドメスティック・バイオレンスのスクリーニング、ケースカンファレンスの実施、家庭での親子の観察、臨床診断に必要な観察などの結果に基づき決定している。グループ・プログラムでは、利用者同士が気持ちを出し合うことでつながりを深め、利用者同士の相互作用による Parenting（Mothering）が図られるように意図されていた。そして地域の人ともつながりを持ち、地域を基盤として子育てを行っていきけるように支援していた。

②宿泊型の家族支援サービス

レベルⅡおよびⅢのサービスの一環として、4泊5日センターに宿泊して CAFHN と Psychologist から支援を受けられる。4つの施設のうち3か所が宿泊型のサービスを提供しており、対象年齢は施設設備により異なっているが、24か月もしくは36か月の乳幼児をもつ家族が対象となっている。セントラル・インテイクよりそれぞれの施設に予約および情報提供がされ、家族はその施設の宿泊サービスを利用することになる。宿泊費用は、日本円にして約4000円/泊である。

36か月までの乳幼児を受け入れている施設では、20家族までの宿泊が可能であった。担当の CAFHN や心理士は、その家族に合わせた育児支援計画を立案し、親



図8 居室



図9 食堂



図10 プレールーム

や子どもの生活の様子をみながら、育児に対するアドバイスを伝えていた。

写真にもあるように、個室環境であるが(図8)、共用の食堂(図9)やプレイルーム(図10)も整備されており、宿泊期間中に参加できるグループワークもあり、子どもたちや親同士の交流が図られていた。

6. おわりに

本稿では、オーストラリアニューサウスウェールズ州において、保健・医療分野の視点により、乳幼児期の子育て支援を紹介した。州のマネジメントにより、リスクの見られない家族からリスクのある家族まで、一貫してシステムの対応できるような政策やガイドラインが確立していることとともに、地域のネットワークを活用し、行政と民間の機関、複数の専門職、地域住民と協働し、役割分担を行うチーム・アプローチによる子育て支援を行っていることが明らかになった。今回の調査により明らかとなった NSW での州政府から地域まで一貫した子育て支援を提供できるシステムは、今後、日本の継続的な育児支援政策を検討するうえで、参考になると考えられた。

[謝辞]

本調査の実施、および本稿をまとめるにあたり、惜しみなく協力をしてくださった国立保健医療科学院生涯健康研究部 川崎千恵先生に感謝する。

また、本稿は2013年度オーストラリア共同研究「乳幼児期の母子関係、子育て、子育てサポートネットワークの日豪比較研究(代表:栗山直子)」の研究分担者としての調査研究報告である。学術振興のために海外共同研究費を提供していただいた追手門学院大学に合わせて感謝の意を表す。

参考文献・ウェブサイト

ABS (2014) "Australian Demographic Statistics" Sep 2014, Catalogue No.3101.0.

栗山直子 (2014) 「ニューサウスウェールズ州の保育」オーストラリア研究第39号

NSW Office of Local Government ウェブサイト <http://www.olg.nsw.gov.au/> (2014-10-10 アクセス)

中山千恵美 (2001) 「子育て支援における親支援について-オーストラリアの親支援をめぐる動向について-」大阪薫英女子短期大学, 大阪薫英女子短期大学研究紀要 36号, 60-69頁

中里英樹 (2011) 「オーストラリアの統合的子育て支援 南オーストラリア州における「子どもセンター」事業と連邦政府による経済的支援を中心に」甲南大学, 甲南大學紀要文学編 161号, 123-131頁

NSW, Department of Health, Local Health Districts and Specialty Networks ウェブサイト <http://www.health.nsw.gov.au/lhd/pages/default.aspx> (2014-10-10 アクセス)

NSW Department of Health (2010). Families NSW Supporting Families Early Package Maternal and Child Health Primary Health Care Policy.

NSW Department of Health (2010). Families NSW Supporting Families Early Package Supporting families early SAFE START strategic policy.

NSW Department of Health (2012). Community Health Strategic Plan 2012-2017

NSW Department of Health. Sydney Local Health District Community Health ウェブサイト <http://www.slhd.nsw.gov.au/CommunityHealth/default.html> (2014-10-10 アクセス)

岡本美香子, 大原良子, 成田伸 (2006) 「オーストラリアの母子保健システムの現状とわが国の母子保健サービスへの提言」自治医科大学, 自治医科大学看護学部紀要第4巻, 31-40 頁
Tresillian Family Care Centre ウェブサイト <http://www.tresillian.net/> (2014-10-10 アクセス)